

## 能美ライオンズクラブとのタウンミーティング

日 時 令和6年10月15日（火）18：10～18：45

会 場 八松苑

参加人数 34人

### 1) 開会

### 2) 市長 市政報告

○はじめに

・「インクルーシブ」というのは、誰一人取り残さない地域共生社会という意味であり、健康な人も、高齢者も、障がいをお持ちの人も、子どもも、外国人も、能美市に住んでいる全ての人が安心・安全、快適に暮らしていただけるように取り組んでいる。そして、来年2月1日に能美市誕生20周年を迎えるので、「能美市誕生20周年に向けて」というサブテーマをつけて、今まで取り組んできたこと等をかいつまんで報告させていただく。

○令和6年能登半島地震

・元日の地震は、1000年に一度の地震と言われている。そして9月21日の大雨は100年に一度の災害であり、大きな自然災害がどうして同じ年に能登ばかりに来るのかという思いである。自身も被災者である能登の自治体職員の仕事量が増加しており、今までに経験したことがないような震災や大雨の対応を強いられている。今、職員を辞められる方も大変多くなってきていて、我々能美市も震災の被害はあったが、能登ほどではないので、しっかりと皆様のご理解とご協力を得ながら、能登への支援を続けていきたいと考えている。

○令和6年度事業・施策／方針・目的

・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるよう取り組んでいる。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増である。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている。いかに赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるような環境を整備するか、健康寿命をどうやって延ばしていくかが重要であり、そのための取組を強化している。

#### ○地域ブランドの確立

・内閣府が各自治体に対して幸福度や暮らしやすさ等を市民に調査したウェルビーイング指標によると、能美市の弱みは「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、いしかわ動物園や手取フィッシュランド等があり、遊ぶ場所はそろっているのではないかと思う。「買い物・飲食」についても、のみ商業協同組合の75店舗やスーパーがあり、また最近はドラッグストアが増えてきている。ただ、市内にはファストフード店がなく、屋内で小さい子どもたちが遊べる大きな場所がない。そのようなところを充実すれば、市民に満足をしていただけるのではないかと考えている。

・大変企業誘致が好調であり、多くの会社に能美市内に進出をしていただいたり、工場を増設したりしていただいている。このことによって、働く場所や人口が増え、加えて、市税の増収という効果につながっている。市税は、令和元年度に初めて90億円を超え、令和4年度に最高額となり、令和5年度は少し減ったが、90億円前後をキープしている。市税が増えれば、福祉や市内の施設充実につなげられ、大変有り難い話である。

・能美根上駅に、待合室やワークスペースを造るとともに、電車接近音を「栄冠は君に輝く」に変更した。また、満車になることが多い東口駐車場の増設を計画しており、さらに、無人となった駅員室の活用も考えている。

・戦略的に企業誘致を進めており、福島グランパークでは、女性が多く働く企業に進出いただいている。また、総合商業施設の建設も予定されている。

・好調な企業誘致の影響をいろいろなところに波及させるため、宅地を造成する必要がある。金沢大学の用地を能美市が譲り受け、新しい町をつくろうと計画している。

・能美市の取組を広く皆さんに知ってもらうため、シティプロモーションを行い、市の魅力をどんどん発信している。例えば、能美市名誉観光大使の松井秀喜さんにご協力をいただいて能美市PRCM第2弾を制作した。

### ○ゼロカーボンシティ

・2013年度のCO<sub>2</sub>排出量を2030年度に半分にし、2050年度にはゼロにしようと取り組んでいる。

・農業をしっかり守ることがCO<sub>2</sub>削減につながっている。農業を持続可能なものにするため、基盤整備やデジタル技術の活用、集約化、6次産業推進を行い、様々な支援メニューを増やしている。

・公共交通、のみバスの利用も重要である。IRいしかわが全線開業したことに伴い、IRいしかわの定期券を持っている人は、のみバスの定期券が半額になる取組も始めた。

### ○インクルーシブシティ

・デジタルの力を活用し、インクルーシブシティを実現させようと、「スマートインクルーシブシティ構想」と題して、3年前からデジタル田園都市国家構想交付金をいただいて、取り組んでいる。能美市の取組が進んでいると評価を受け、取組を全国に発信するため、あさって、千葉県の幕張で開催されるCEATECという大きな展示会で講演を行う。

・ペーパーレス・相互連絡として、町会長・町内会長、民生委員児童委員、ケアマネージャー等にタブレットを配付している。これによって、能美市からの様々な連絡を全てペーパーレスにでき、またそれぞれがこのタブレットを使って情報を交換できるようになっている。保育園でも、お便りを紙からアプリでの送信に変え、登園の管理もデジタル化し、保護者にその情報が伝わるようにした。小中学校もアプリで連絡をするようにしており、以前はインフルエンザ流行期に欠席の電話が集中してつながらなかったことがあるが、今はアプリで簡単に欠席連絡ができるようになっている。また、コロナ禍のときに保護司と対象者がなかなか会えなかったことを受け、保護司全員にタブレットを持っていただいた。これによって、対象者に会わなくてもケアできるようになり、当時は保護司と対象者が1対1の関わり合い方だったのが、タブレットによって、対象者1に対して保護司が複数人で対応できるようになった。

・デジタル公民館として、市内82の公民館全てにWiFiをつけ、公民館を多世代の交流の場とするための様々な取組を行っている。高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないこ

とを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

- ・公民館は避難所になることが多いので、マイナンバーカードによる避難所受付を行おうと進めている。また、監視カメラを設置し、子どもたちが通ったかどうかや、公民館の付近の川がどれだけ増水しているか等をチェックできるようにしたい。

- ・公民館でオンライン診療も行おうとしている。例えば高血圧や糖尿病の場合、毎月1回かかりつけ医に行き診察を受けて薬をもらう必要がある。それを公民館でオンライン診療を受けることによって、病院や薬局に行かなくても薬をもらえるようにしようとしている。ただ、これには様々な課題があったり、設備投資も必要だったりするので、今、粟生町をモデルケースとして、様々な検証をしながら、随時広げていきたいと考えている。

- ・IoT家電による見守りサービスを市内80か所ぐらいで試験的に行っている。

- ・防災ガイドブックを各家庭に紙で配布しているが、避難時にまず持っていくものはスマートフォンであり、ガイドブックのデジタル化を進めている。

- ・タクシー運転手が大変不足しており、二種免許を持っていない人たちに移動に困っている人を助けてもらおうと、ライドシェアの仕組みを今考えている。まず、国造地区から始めようと考えており、アンケート調査を実施する予定である。

- ・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなくなってしまうということが発生し、全国的に電子カルテ化が広まった。石川県は、もうすでにID-Linkとして出来上がっていて、今回の能登半島地震でも、紙のカルテは押し潰されてしまったが、電子カルテがあったため、能登の方が避難先の能美市でも薬をもらうことができた。能美市全体で電子カルテの共有化ができるよう、市内の病院・クリニックで全部同じ電子カルテにして、平時だけではなく災害時でも、しっかり医療を受けられるようにしようとして取り組んでいる。共有化によって、検査結果を他の病院でも確認できるようになり、医療費が安くなり、初診が早くなるという利点があるほか、病院やケアマネージャー、薬剤師、救急隊等が情報を共有できるようになるメリットがある。ただ、診療情報等にはデリケートな情報も含まれるので、どこまでどの情報を誰に開示するか、能美市医師会の皆様のご協力を得て、きちんと整理しながら行おうと、今取り組んでいる。

#### ○行財政改革

- ・道路の陥没等をスマートフォンで撮影して、送っていただくマイシティレポートを導入

している。

・学校施設の長寿命化に取り組んでいるが、市内の11小中学校は面積比で築50年以上が35%を占める。特に給食室が古かったので、まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しくした。能美市には寺井地区、辰口地区、根上地区と3地区があり、そのうち辰口地区は既に給食センターから給食を提供していたが、寺井地区と根上地区は自校式の給食であった。その2地区に新しい給食センターから給食を提供する。

・保育園の民営化にも取り組んでおり、15あった公立保育園のうち、まず、一番古かった福島保育園を民営化した。続いて、緑が丘と湯野保育園を民営化している。

#### ○市民ファースト・現地現場主義

・視察を行うとともに、市民の皆さんとの対話も大切にし、タウンミーティングやカフェトークも行いながら、市政への反映を行っていきたい。

・能美市誕生20周年に向けて、様々な取組を考えている。

・能美市には北陸新幹線の駅がないので、小松駅に「となりは能美市」という看板を出してPRしている。金沢へ行くホームのエスカレーターがない階段のところがあるので、ぜひご覧になっていただきたい。

### 3) 閉会